

第8回秋田市マイタウン・バス東部線上北手地区運行協議会議事要旨

開催日時 平成29年2月2日（木） 午後6時00分～7時10分

開催場所 上北手地区コミュニティセンター 和室

委員定数 10人

出席委員 8人

次 第 1 開会
2 議事
3 その他
4 閉会

議 事 議事(1) 秋田市マイタウン・バス東部線の利用状況について
(2) 今後の事業改善について

事務局 ただ今から第8回秋田市マイタウン・バス東部線上北手地区運行協議会を開催する。

本日の協議会は委員10名中、委員の過半数である8名の出席をいただいていることから、秋田市マイタウン・バス東部線運行協議会設置要綱第5条第2項により会議が成立することを報告する。

なお、2名の委員については、本日所要により欠席される旨の連絡をいただいている。

開会にあたり、交通政策課長よりあいさつ申し上げます。

（交通政策課長あいさつ）

事務局 次第2の「議事」に入る。

ここからは、設置要綱第4条第3項の規定により、会長に議長となっただき、会の進行をお願いする。

会 長 議事1，2について、続けて事務局に説明を求める。

事務局	(説明)
会長	ただいまの説明に対し、質問等はあるか。
委員	上北手だけではなく、マイタウン・バス全体の赤字額はどの程度なのか。
委員	約1億6千万円である。 もともと赤字路線バスを引き継いでいるので、赤字を0にするというのは現実的に無理。もっとバスを利用してもらい収入を上げ、かつ少しでも経費を圧縮する手立ても考えていかなければならない。 例えば、北部線では予約式で運行している。上北手コースでは利用者が皆無に近い便もあるので、予約式への移行も考えられるが、それ以外の方法も含め、委員の皆さんの忌憚のない意見をいただきたい。
委員	予約式にしても車両と運転手は待機させなければならないので、あまり経費圧縮はできないのではないか。
委員	そのとおり。東部線は3コースを車両2台で回しているので、1台にするわけにはいかないの、燃料費の減程度で、劇的な経費圧縮にはならないと思う。 しかしながら、空気を運んでいるような状況は解消すべきであり、少しずつでも改善していく必要があると思う。
委員	全便予約式ではなく、利用者の少ない便のみを予約式にするという手法は可能か。
委員	運行事業者と相談しながらだが、可能だと思う。
委員	当社では男鹿市と潟上市でもマイタウン・バス事業を受託しているが、定時定路と予約式の併用で運行している。
会長	利用状況を踏まえると、予約式への移行を考えてもよいのではないか。 例えば、土日運休や、土日のみ予約式というのはどうか。

事 務 局	予約式を採用するとオペレーターが必要になり、人件費等が少し増加することとなる。 その経費増をカバーするためには、平日も含め、全便とはいかずとも利用者数の少ない便を選んで予約式にするといったところが適切かと考えている。
会 長	一旦予約式に移行して、また定時定路に戻すということはできるのか。
事 務 局	できないことはないが、北部線でも理解していただいて、かつ慣れていた。 はじめは面倒に感じるかもしれないが、例えば「乗らないときにだけ電話する」などの、実態に即した運用も行っている。
会 長	それでは、上北手コースおよび中北手コースについて、平日休日を問わず、利用者数の少ない便について、予約式への移行を市に検討していただくということによろしいか。
委 員 一 同	異議なし。
会 長	各町内会長にも、私から周知したいと思う。
委 員	いずれ、配車の関係など、移行が可能かどうか運行事業者と相談しながら進めていく。
会 長	ほかに質問や意見がないようなので、次第3の「その他」について、何かあるか。無いようなので、進行を事務局に戻す。
事 務 局	第8回秋田市マイタウン・バス東部線上北手地区運行協議会を閉会する。

以上